

### 第3学年授業の取組



運営責任者 仙台市立市名坂小学校 赤江 里香  
仙台市立通町小学校 安附 仁  
授業研究部 仙台市立太白小学校 板橋 宏明  
仙台市立大野田小学校 坪井 和子

## 1 研究テーマとの関連

### (1) 児童が、科学する楽しさを体感し、実感の伴った理解を得させるために

- ・見通しをもって自然の事物・現象に働きかけるための工夫

(遊びを通して風の力を十分体感する活動の保障，一人1実験，テープでの測定結果の掲示による結果の共有化，学習ゲームでの意欲付けなど)

### (2) 言語活動の充実のために

- ・条件に着目したり視点を明確にしたりして，自らの考えを顕在化させるための工夫

(結果から分かったことをまとめるグループでの話し合い活動，ワークシートを活用した結果の整理，よく走る帆の形を予想することなど)

## 2 研究の課題と方向

### (1) 研究について

#### 10月の授業研究について

(授業者 太白小学校 小畑 雄一先生 単元名「風やゴムで動かそう」)

本時は，風の強さによって，車の動き方が違うことを理解することをねらいとした。このねらいを達成するために，実感を伴った理解を深めるための一人1実験と遊びをとおした風の体感，実験結果を端的なものにするために風の強さを2段階にすること，十分な実験時間の確保，実験結果を共有するためにテープで測定して掲示することなどの手立てを立てた。その結果，ほとんどの子どもが「風が強くなると，車の移動する距離が長くなる」ことが検証され，風の強さを車の動き方と関連付けて理解することができた。しかし，逆転現象が起こってしまった児童が2名おり，その理由についてこだわっていた。原因として，体育館の傾斜，風の当て方，車が止まるまでコースに出ないという約束が守られなかったことなどが考えられる。車が曲がって進んでしまった場合はやり直しをしてよいことを指示する，スタートさせる場を正確に設置する，逆転現象を基に全体で再実験してみるなどのアイデアを，今後の研究に生かしていきたい。

ただし，掲示したテープの長さを全体で共有できたので，風が強いときと風が弱いときの傾向をつかむことはできた。テープで車が走った距離を測り取り，掲示する方法は結果を整理するために有効だったと考えられる。また，送風機の目盛りを強と弱の二つに絞ったことで，結果が端的で分かりやすいものになった。さらに，全体で実験結果を共有し合う話し合いの場面で「ぼくの結果は違う」と自身をもって話した子どもがいた。何でも話し合える雰囲気があり，学び合いが実現できるクラスとなっていたことも特筆すべき点である。よい学級経営が，よい授業をつくるための条件であることが，再確認できた。



### (2) 部会の運営について

- ・ 8月23日(木) 太白小学校において，指導案検討会
- ・ 10月30日(水) 太白小学校において，第1回研究授業・検討会
- ・ 2月 5日(水) 残念ながら，2月の授業は実施できず，他学年の研究授業に参加し，研究を行った。